

2022年12月期 第3四半期 機関投資家向け決算説明会

YCP Holdings (Global) Limited
2022年11月14日





アジェンダ

はじめに

2022年12月期 第3四半期 業績

各事業のご紹介：マネジメントサービス事業

各事業のご紹介：プリンシパル投資事業

2022年12月期 業績予想

質疑応答

はじめに





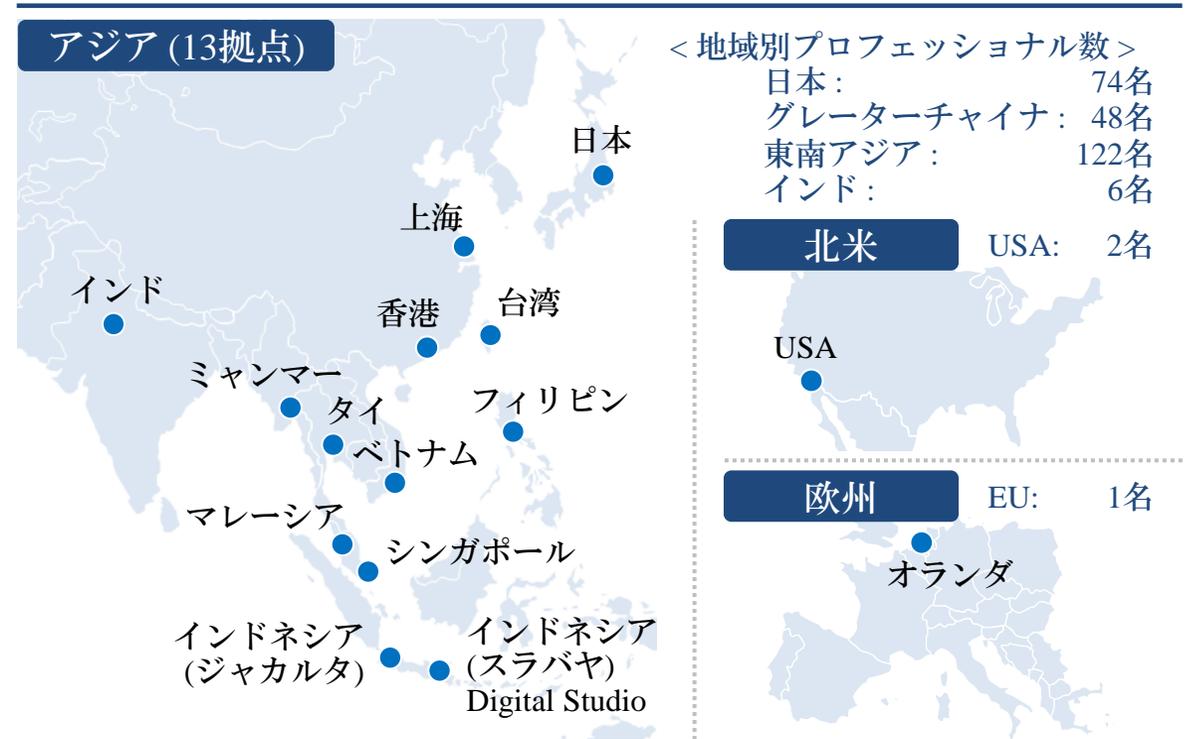
会社概要

YCPグループは、2011年8月創業の株式会社ヤマトキャピタルパートナーズ (現・株式会社YCP Solidiance) にて事業を開始し、日本人以外のプロフェッショナルも積極的に雇用し国際色豊かな組織を実現するため、グループの社名をYCPに改めると共に2013年に香港を拠点とするホールディングス化を実施。世界情勢の変動や東南アジアの台頭を背景に、当社グループの売上収益や人員構成における東南アジアの比重が高まったことで、2021年にハブ拠点として優位性を持つシンガポールに当社 (YCP Holdings (Global) Limited) を設立し、グループ統括機能を設置

YCPグループ概要

持株会社商号	YCP Holdings (Global) Limited (東京証券取引所グロース市場: 9257)
持株会社住所	3 Fraser Street, DUO Tower #05-21, Singapore
グループ事業	1. マネジメントサービス事業 2. プリンシパル投資事業
グループ設立	2011年8月
持株会社資本金	35,422,430米ドル
グループ代表者	石田 裕樹
グループ社員数 ^{*1}	プロフェッショナル数: 253名 投資先を含む総社員数: 511名

グローバル拠点^{*2}



*1: 2022年9月30日現在。地域別プロフェッショナル数は、マネジメントサービス部門とオペレーションズ部門の合計人数

*2: 拠点数は本資料提出日現在の数



事業概要及び当社グループの報告セグメント

当社グループはクライアントへ各種経営支援を提供する「マネジメントサービス」と、自己資本によってリスクマネーを提供する「プリンシパル投資」の2つの事業を展開。グローバルネットワークを通じたクロスボーダーでの事業展開、M&Aの専門知識、そしてデジタルトランスフォーメーションへの取り組みの3つを強みに持つ

売上収益の約8割がM&AやDX導入をテーマとした現場常駐型(PMO型)の経営支援。残り2割がデュー・ディリジェンスや戦略提言といった高付加価値サービス



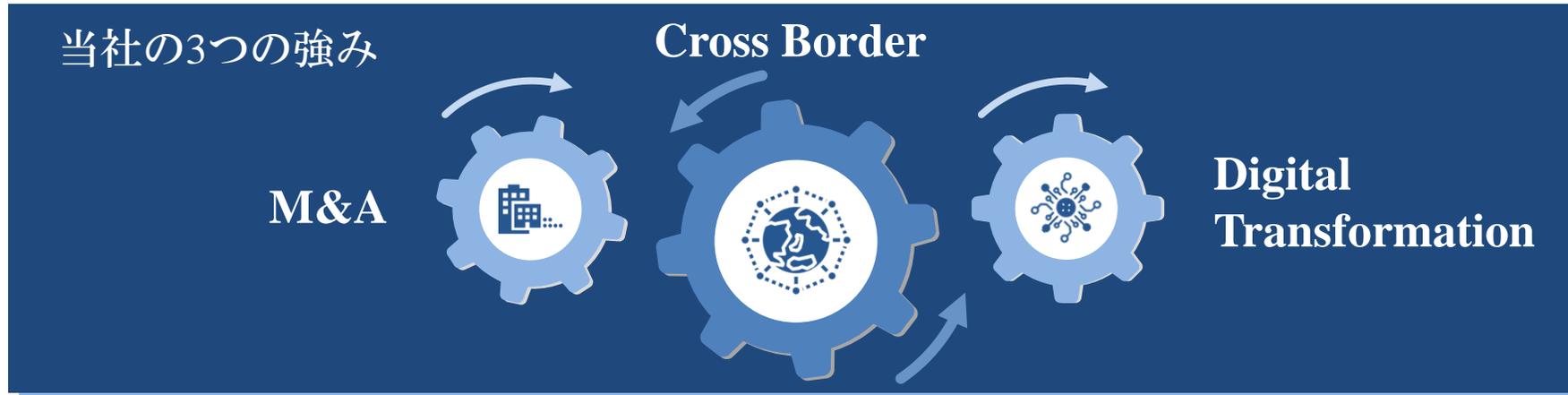
経営人材の派遣



実践的なノウハウ・知見の提供



中小／新興企業に対して自己資金を投下した上で直接的に経営参画。パーソナルケア領域及びペットケア領域を重点領域と定め、それ以外のポートフォリオは戦略投資領域として、3つのセグメントで業績を開示



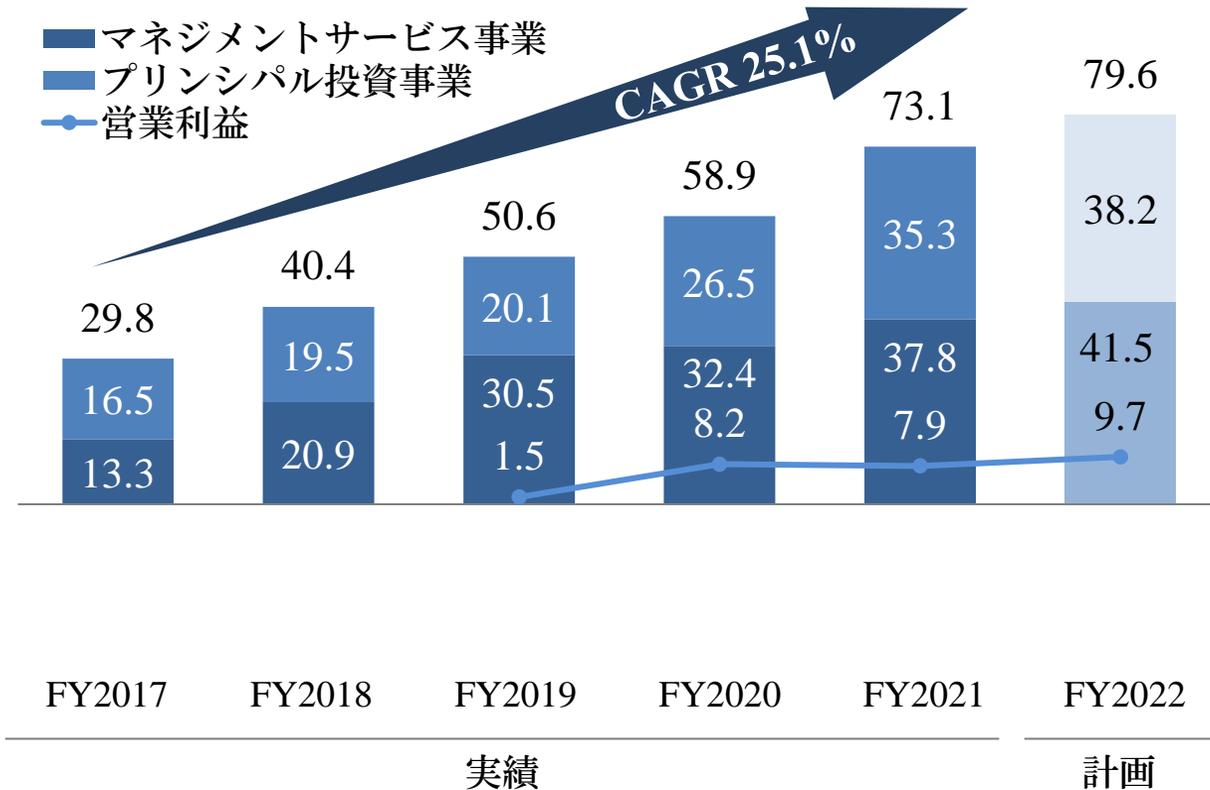


過年度の業績推移と今期業績予想

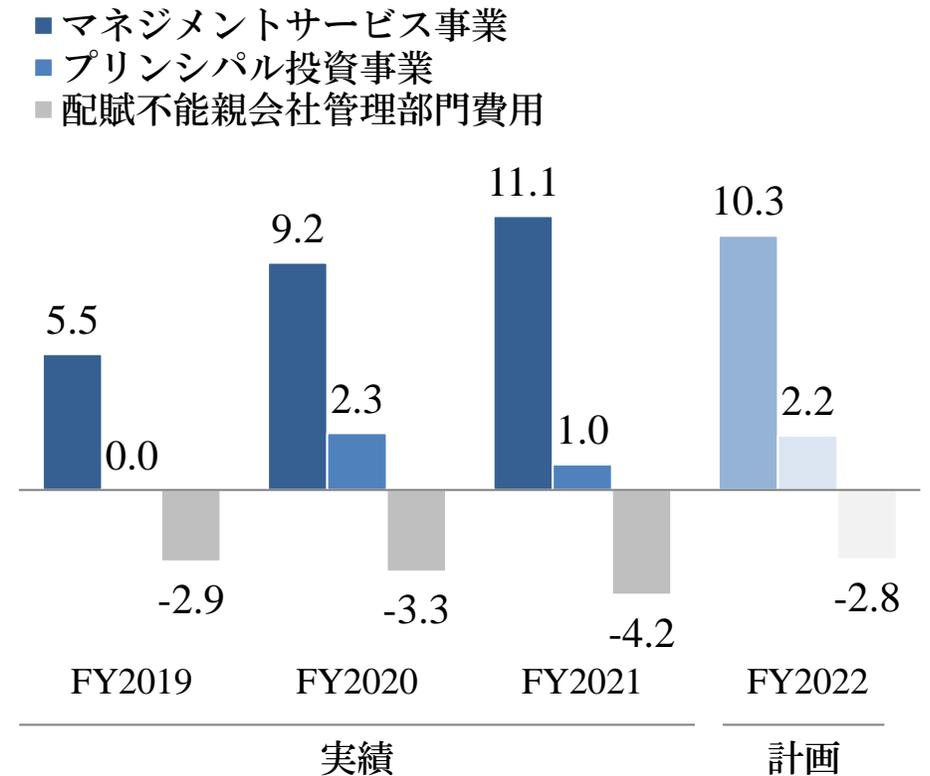
グループ創立10年で売上73.1百万米ドル (84.1億円*)、営業利益7.9百万米ドル (9.1億円*) を達成。

直近5カ年の年平均成長率は25.1%

売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



セグメント損益推移 (百万米ドル)



* 日本円への換算は、1ドル = 115.02円 (2021年12月30日の為替レート) により計算

2022年12月期 第3四半期 業績





FY2022 Q3 業績ハイライト

FY2022 Q3業績 (累計)

売上収益	YoY (増減)	予算進捗率
61.6 百万米ドル (89.2億円*1)	+13.7% (+47.1%*2)	104.1%

営業利益	YoY (増減)	予算進捗率
7.1 百万米ドル (10.3億円*1)	+9.9% (+42.2%*2)	98.8%

四半期利益	YoY (増減)	予算進捗率
4.9 百万米ドル (7.1億円*1)	+19.6% (+54.7%*2)	84.0%

ハイライト

- FY2022 Q3 (累積) のグループ連結業績は増収増益を達成し、大幅な成長を実現
- マネジメントサービス事業は、加速する円安の影響が大きくYoY -8.5%の減収、-12.4%の減益
- プリンシパル投資事業では、パーソナルケア領域の好調な成長に加え、2022年7月に高度医療病院の買収を行ったペットケア領域、飲食事業において新型コロナウイルスの影響が軽減する中で2022年9月には株式会社ARUKIの完全子会社化を実施した戦略投資領域の全てで大幅な増収増益を達成。当セグメントではYoY +27.8%の増収、+129.3%の増益。
- 結果、グループ連結売上収益はYoY +13.7%の増収、グループ連結営業利益は+9.9%の増益となった。円貨ベースでの前年実績と比較すると、売上収益はYoY +47.1%、営業利益は +42.2%と大幅な増収増益
- 当期利益については、税務負担の大きい子会社で利益及び法人税が拡大した一方で、税務負担の小さい子会社で損失が発生したため、当初計画に比して連結ベースでの実効税率が悪化、予算達成率は84.0%にとどまった

*1：日本円への換算は、1ドル = 144.81円 (2022年9月30日の為替レート) により計算

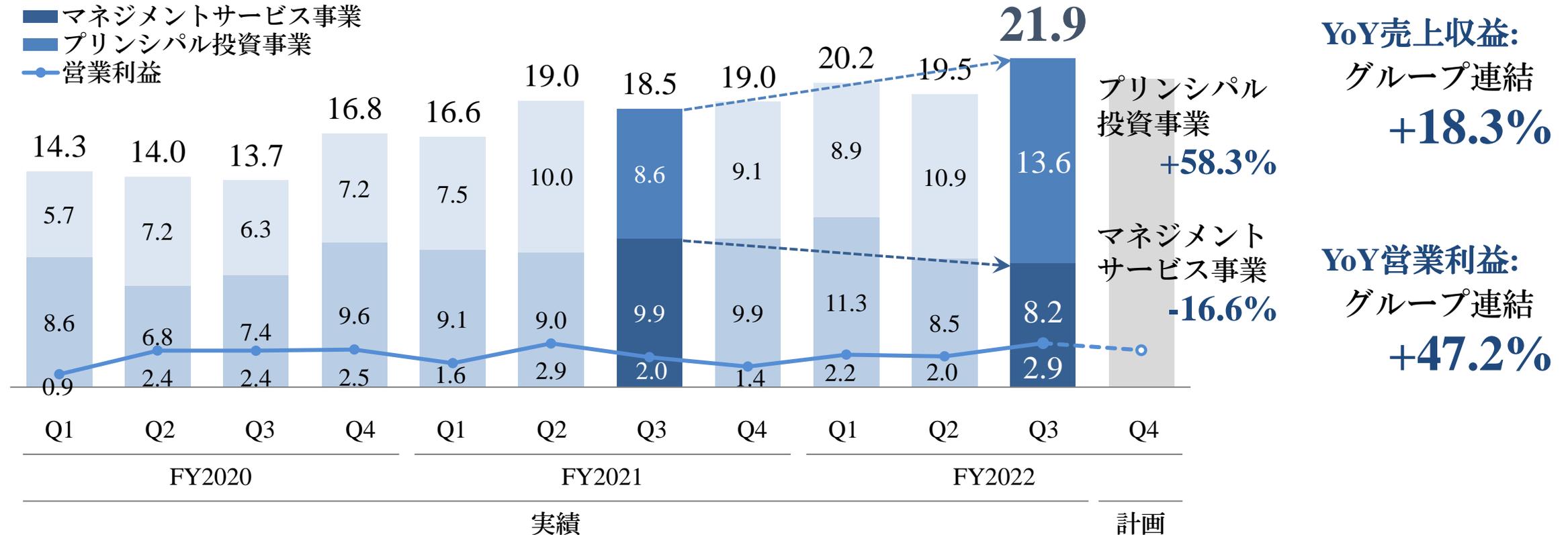
*2：1ドル = 111.95円 (2021年9月30日の為替レート) を使用した前年度の業績に対する円貨ベースでの前年同期比



FY2022 Q3 グループ連結業績

FY2022 Q3は売上収益21.9百万米ドル (31.7億円*)、営業利益2.9百万米ドル (4.2億円*) で着地。米ドル高の影響が大きかったマネジメントサービス事業では減収となったものの、プリンシパル投資事業における大幅な増収増益を受け、グループ連結では2桁成長を維持

売上収益・営業利益推移 (百万米ドル)



* 日本円への換算は、1ドル = 144.81円 (2022年9月30日の為替レート) により計算

各事業のご紹介： マネジメントサービス事業



マネジメントサービス事業のご紹介

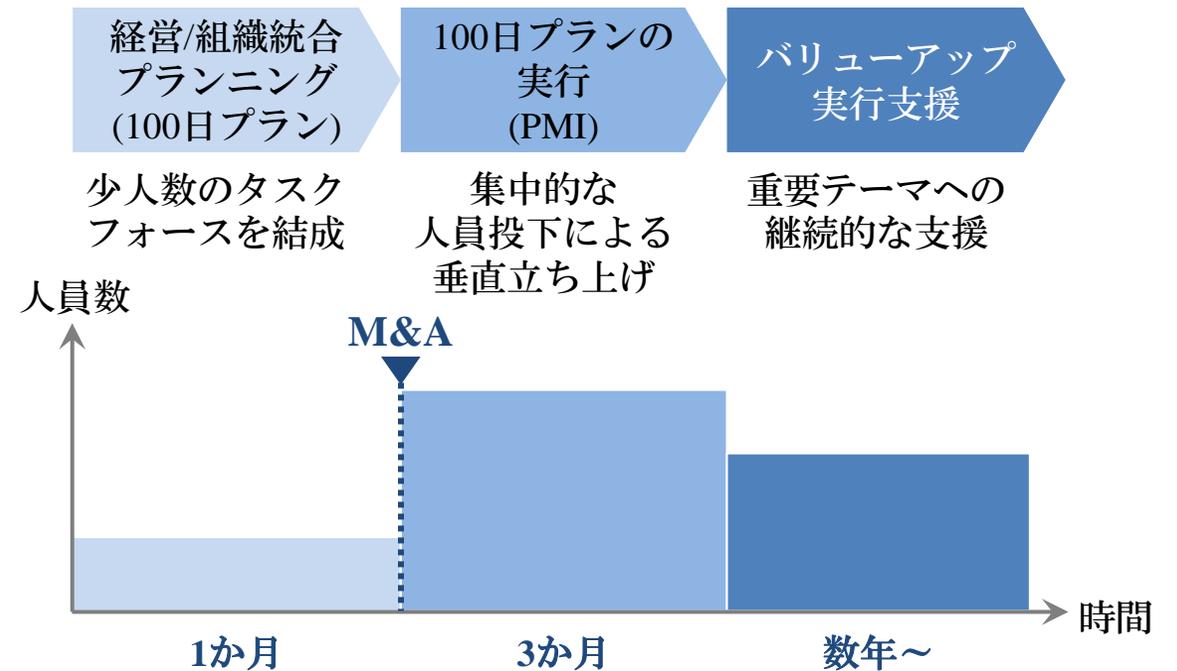
YCP Solidianceのブランドで展開するマネジメントサービス事業では、M&AやDX導入をテーマにした現場常駐型 (PMO型) の経営支援サービスをアジア全域で提供し、事業部売上の約8割を占める

PMO (Project Management Office) とは



M&AやDX導入など大きな企業変革を伴う際に、部門を横断して柔軟に実行支援をサポートする特務組織

M&AにおけるPMO支援のイメージ



M&A実行の1か月前から支援を開始し、PMOとして長期に渡って常駐型での支援を継続

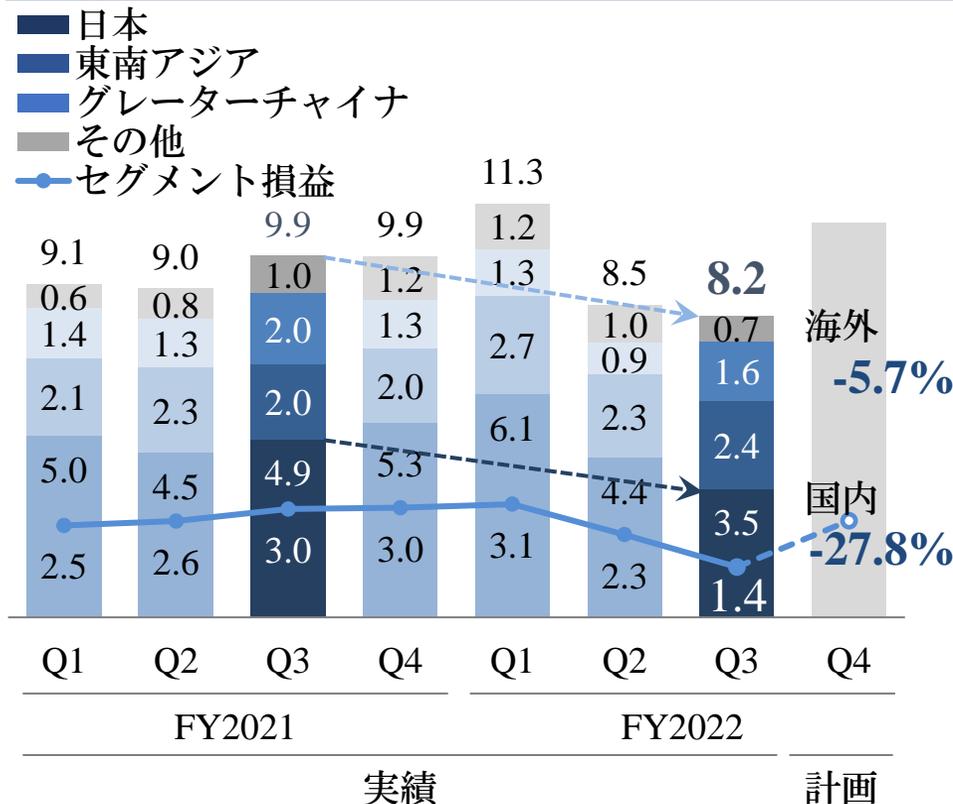
マネジメントサービス事業の業績

FY2022 Q3は売上収益8.2百万米ドル (11.9億円*)、セグメント損益1.4百万米ドル (2.0億円*) で着地。加速する円安の影響で国内は米ドルベースで-27.8%の減収。ただし、現地通貨ベースでは-6.6%と軽微な減収に留まり、前年と同水準の売上規模を維持。後述するオークタス社との経営統合により、さらなる事業強化を狙う

(参考)

現地通貨ベースでの国内売上収益推移* (億円)

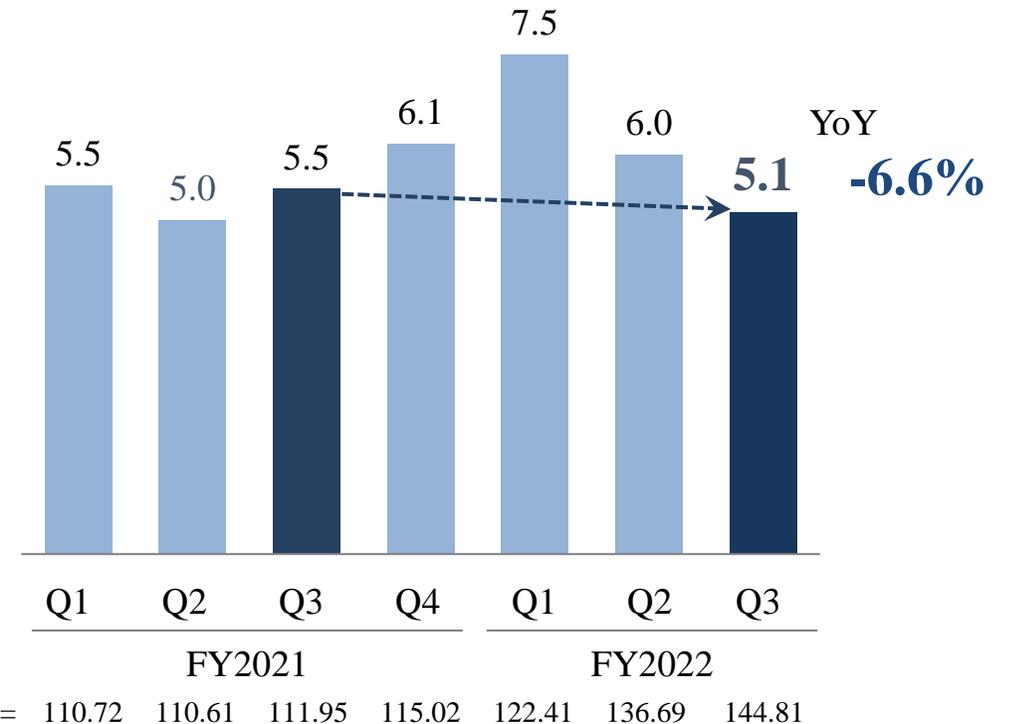
業績推移 (百万米ドル)



Q3 売上収益:
事業全体
8.2百万米ドル

Q3 海外売上比率:
51%

Q3セグメント損益:
事業全体
1.4百万米ドル



* 日本円への換算は、各期末時点の米ドルと円の為替レートを適用



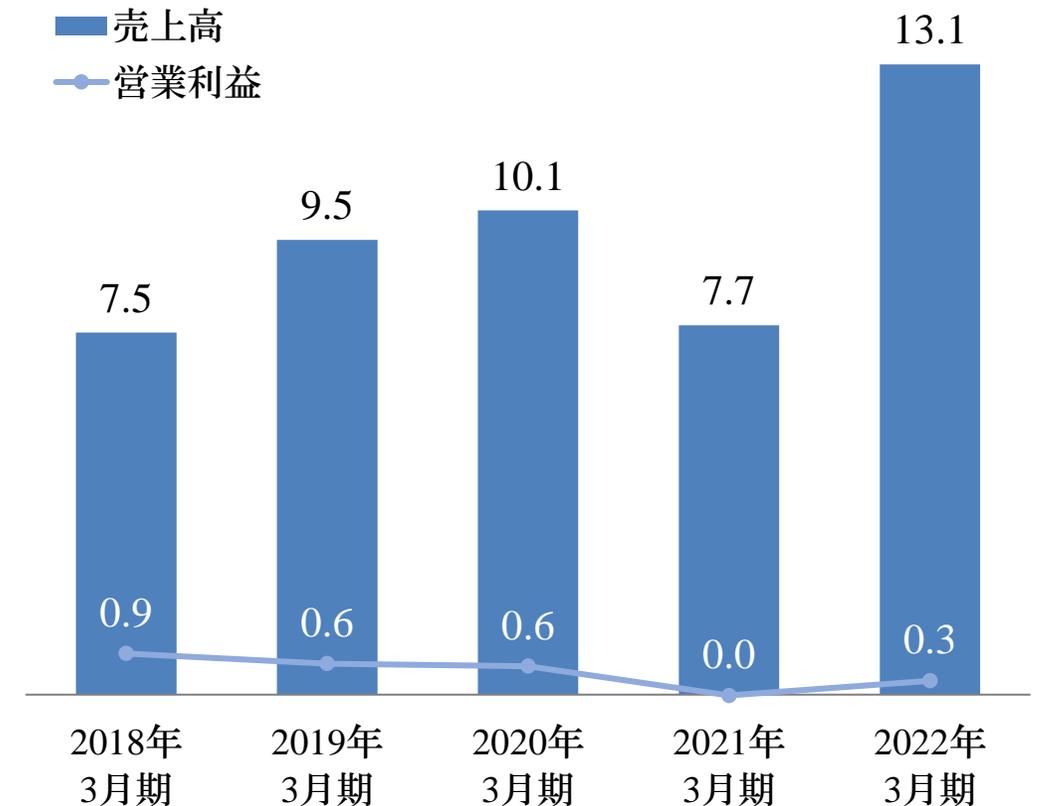
オークタス社の完全子会社化（11月予定）

2022年11月に、PMO・DXに強みを持つインド発の独立系コンサルティングファームであるオークタス社の完全子会社化を実施。これにより世界15拠点・約250名から、世界18拠点・約380名体制へと拡大

オークタス社の概要

名称	Auctus Advisors Private Limited
設立	2010年7月
拠点	インド国内4拠点 (Delhi, Bangalore, Mumbai, Hyderabad)
従業員数	125名 (2022年10月31日時点)
グループ事業	経営コンサルティングサービス及びDXソリューションの提供
主要取引先	<ul style="list-style-type: none"> Delhi International Airport Pvt Ltd Mahindra Holidays and Resports India Pvt Ltd Talace Private Limited GMR Airports Limited AirIndia Limited

オークタス社の業績推移 (億円*)



* 日本円への換算は、1インドルピー=1.8円 (2022年10月31日の為替レート) により計算

各事業のご紹介： プリンシパル投資事業





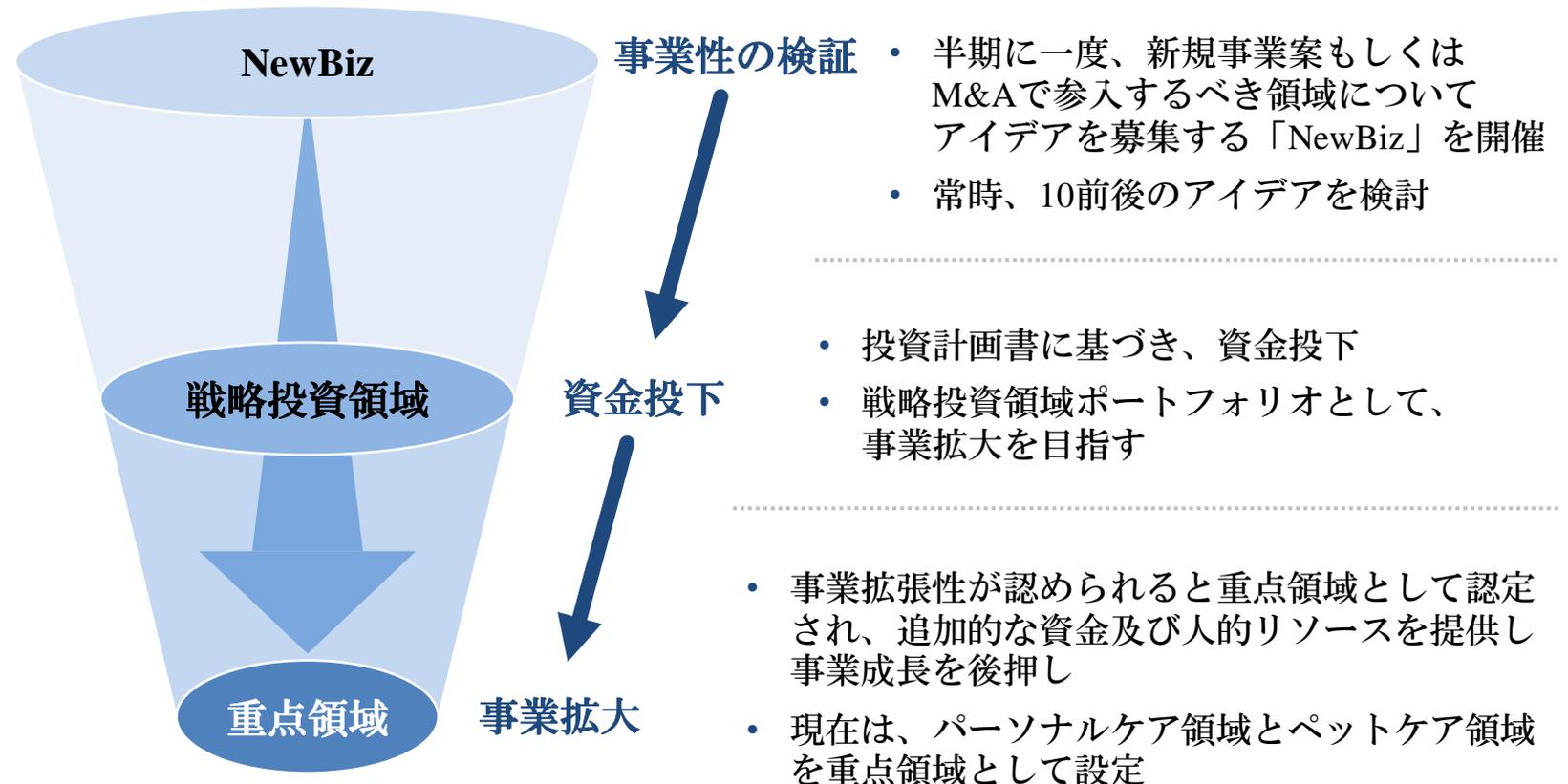
プリンシパル投資とは

マネジメントサービス事業を通じて培った経営人材のプラットフォームを活用し、中小 / 新興企業に対して自己資金を投下

投資要件

1. 売上100百万米ドル以上の事業規模が見込まれる
2. グループの人材プラットフォームを活用しグローバル展開が可能
3. 投資規模が借入を含めて20百万米ドル以下
4. 30%以上のIRR (内部収益率)
5. グループのプロフェッショナルにとって、「Strive for Growth」を実現できる良い学びの機会

プリンシパル投資事業の立ち上げから拡大までの流れ



パーソナルケア領域のご紹介

自社で開発したパーソナルケア・ブランドを、アジア全域で展開。オンラインで直接販売を行うD2Cモデルを採用し、当社のグローバルプラットフォームを活かし、海外へも積極展開

主要ブランド



事業戦略



DX



クロスボーダー



SOLIAのD2Cモデル



ALOBABYの海外展開の経緯

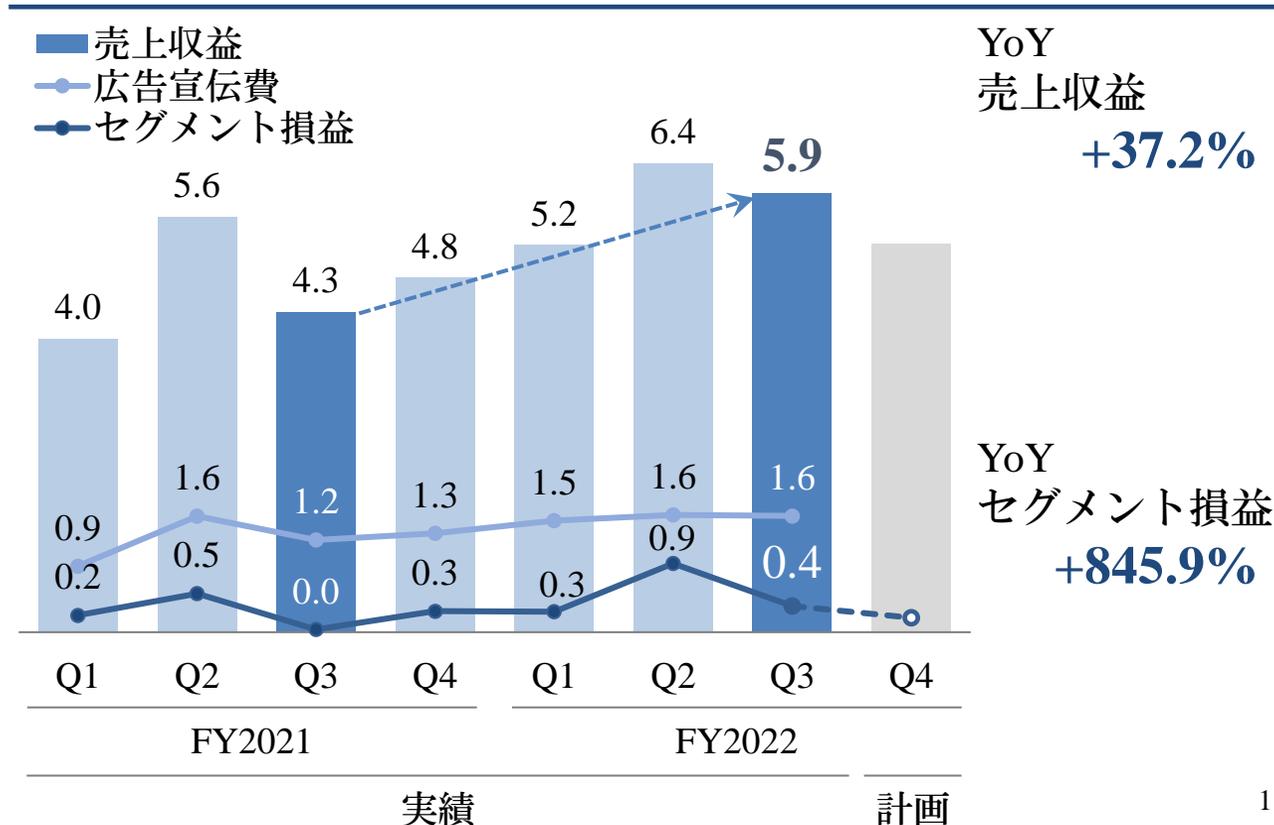


パーソナルケア領域の業績

FY2022 Q3は売上収益5.9百万米ドル (8.6億円*)、セグメント損益0.4百万米ドル (0.6億円*) を達成。

「ALOBABY」「AMBiQUE」の主要ブランドが順調に拡大。トップライン拡大を狙う広告宣伝費の積極投資は維持しながらも、ボトムラインで安定的な利益貢献ができる状況にまで成長

業績推移 (百万米ドル)



(参考) 現地通貨ベースでの業績推移* (億円)



* 日本円への換算は、各期末時点の米ドルと円の為替レートを適用

ペットケア領域のご紹介

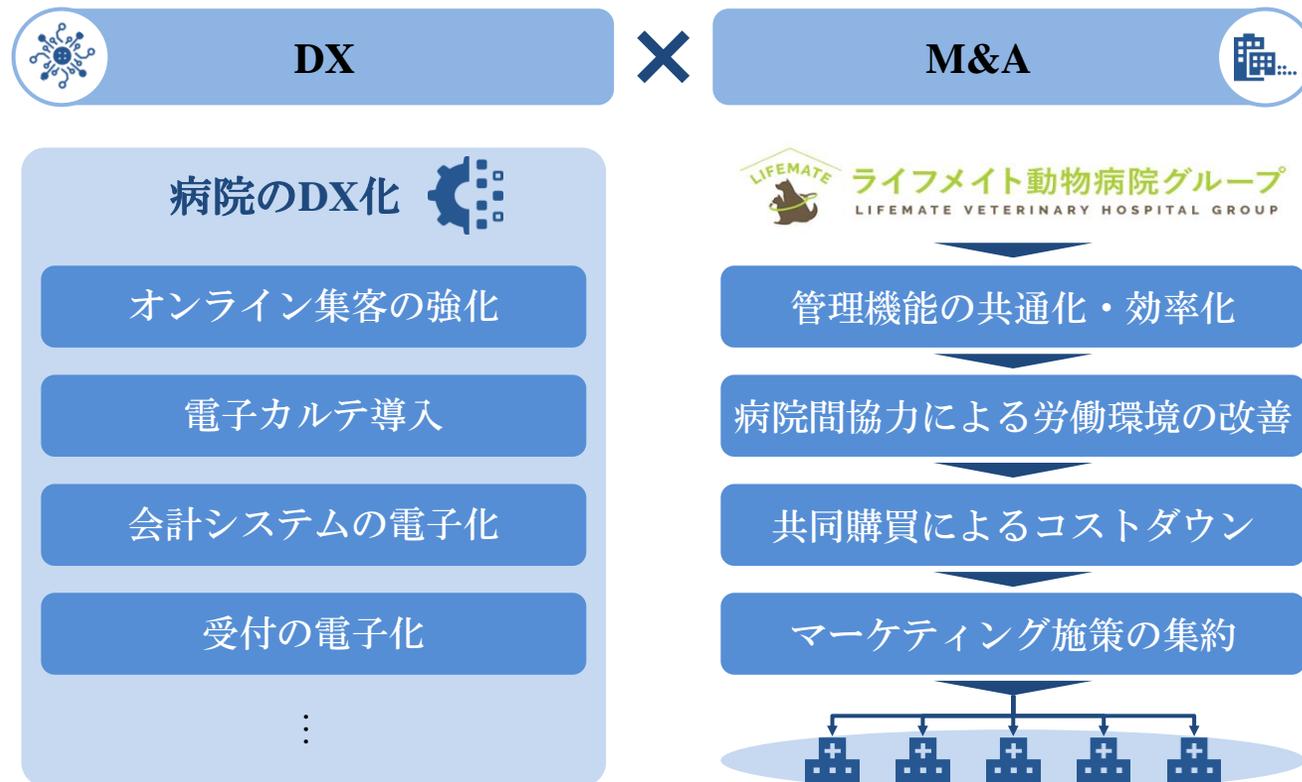
事業承継による複数動物病院をグループ化、および承継先病院のDX化を通じた事業のスケールアップを目指す。現在、高度医療病院を4施設、動物病院を5施設と、計9病院を所有、運営している

動物病院の運営



事業承継による複数の動物病院をグループ化。現在は、関東及び北海道において9病院を運営しており、加えて常時複数のM&A案件を検討している

事業戦略



2022年7月、高度医療病院の事業を承継

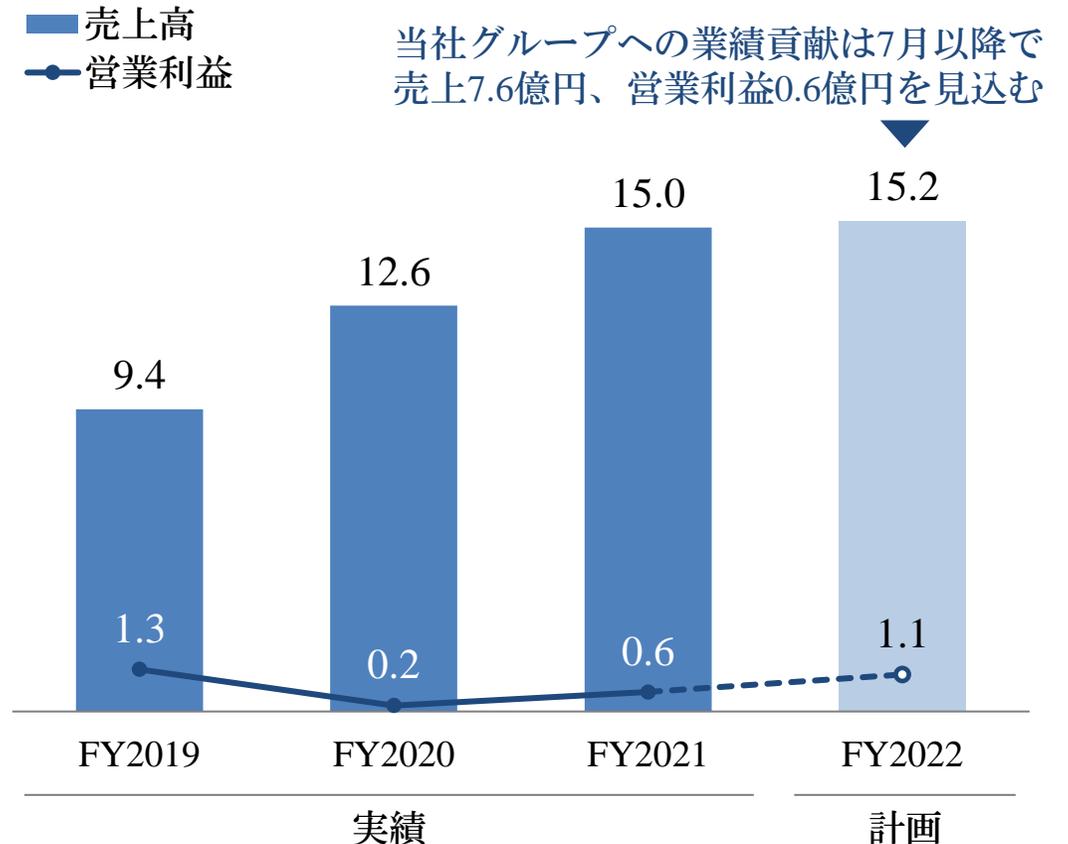
株式会社アニマルメディカの高度医療病院事業を承継。動物向けの高度医療を担う二次診療や夜間救急診療を展開する売上15.0億円(2021年通期)の大型病院グループ

(株)アニマルメディカの事業内容



練馬、文京、府中、八王子と東京都内で4病院を運営。緊急手術対応や、CT・MRI・ICU装置など最新の医療設備を備え、動物向けの高度医療である二次診療を提供する

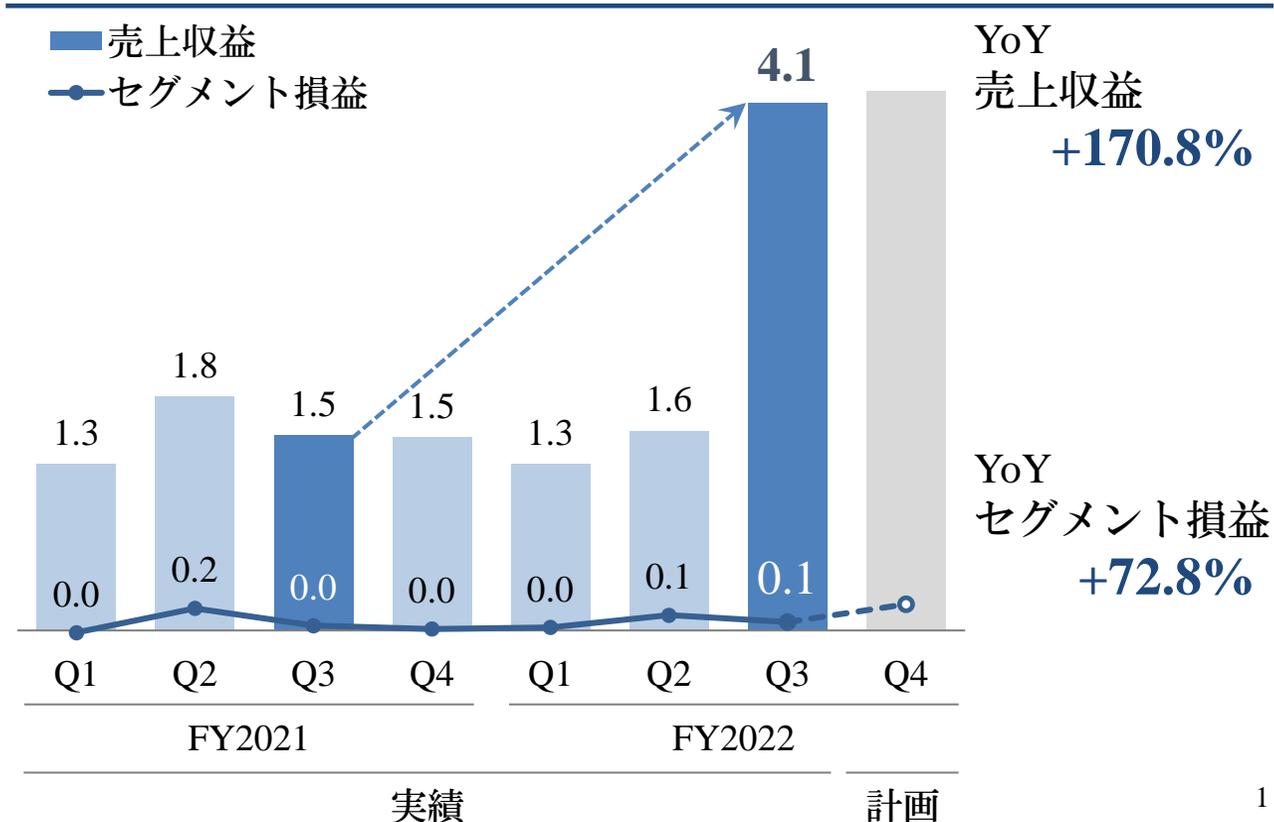
(株)アニマルメディカの業績推移 (億円)



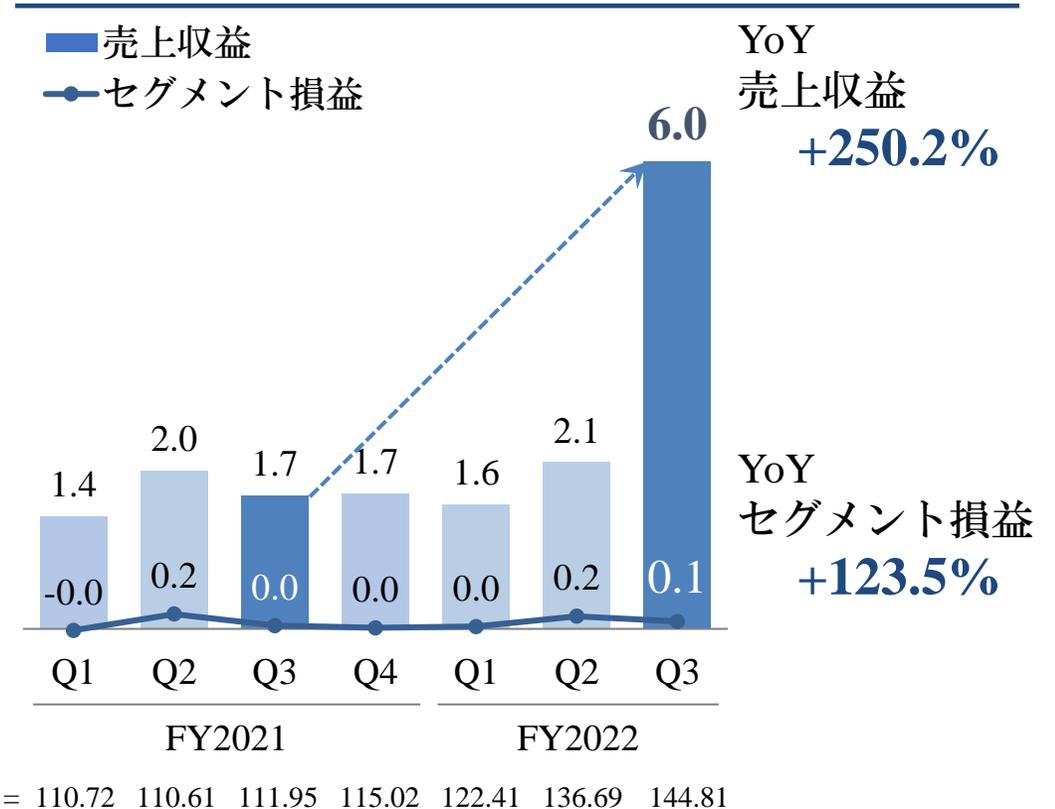
ペットケア領域の業績

FY2022 Q3は売上収益4.1百万米ドル (6.0億円*)、セグメント損益0.1百万米ドル (0.1億円*) で着地。2022年7月に実施したアニマルメディカ承継により、大幅な増収増益を達成

業績推移 (百万米ドル)



(参考) 現地通貨ベースでの業績推移 (億円)



* 日本円への換算は、各期末時点の米ドルと円の為替レートを適用



戦略投資領域のご紹介

将来の重点領域となるべきビジネスシーズに対しても、戦略投資領域として積極的に投資を実行。
主には、シンガポール及び香港における日本食レストランや、シニア向けサービス等を展開

飲食領域



GO Food

「食を通じて、世界中の人々により多くの笑顔届けたい」という
ミッションのもと、調理プロセスの最適化、徹底的なオペレーション
の効率化を行い、ハイクオリティな日本食ブランドを海外へ展開

シニア領域



管理不要・後継者不要・宗派不問
の自動搬送式納骨堂の販売事業を
展開



2022年9月、株式会社ARUKIの完全子会社化

これまで当社が25%の持分を保有していた株式会社ARUKIの全株式を取得。北海道で海鮮居酒屋「海味はちきょう」等の飲食事業を展開し、コロナ規制の緩和を受け業績は急回復。今後大きな収益貢献を見込む

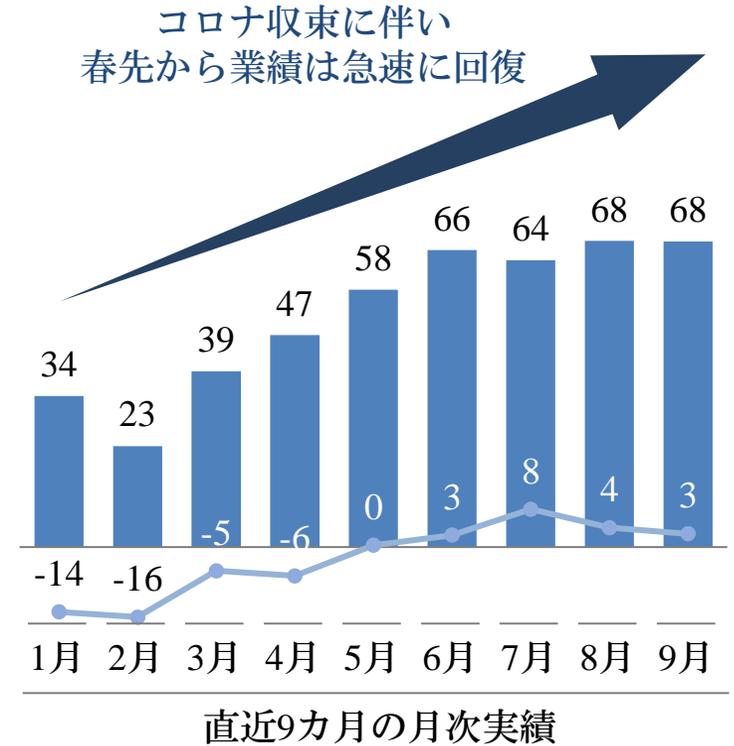
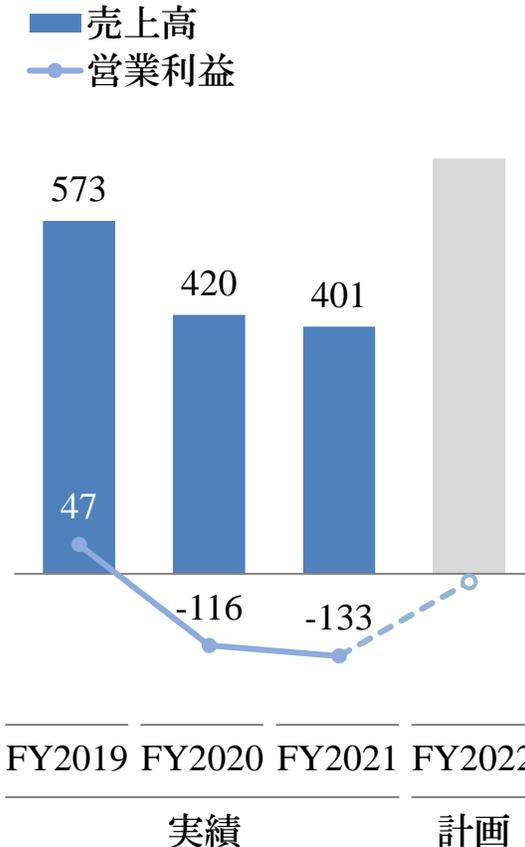
(株) ARUKIの事業内容

海味
はちきょう



いくら丼の「つつこ飯」で有名な「海味はちきょう」(道内5店舗)の他、おまかせコースのみを提供する「mare八響」、蟹味噌ラーメンを提供する「クラブギャング」など複数の飲食ブランドを展開

(株) ARUKIの業績推移 (百万円)

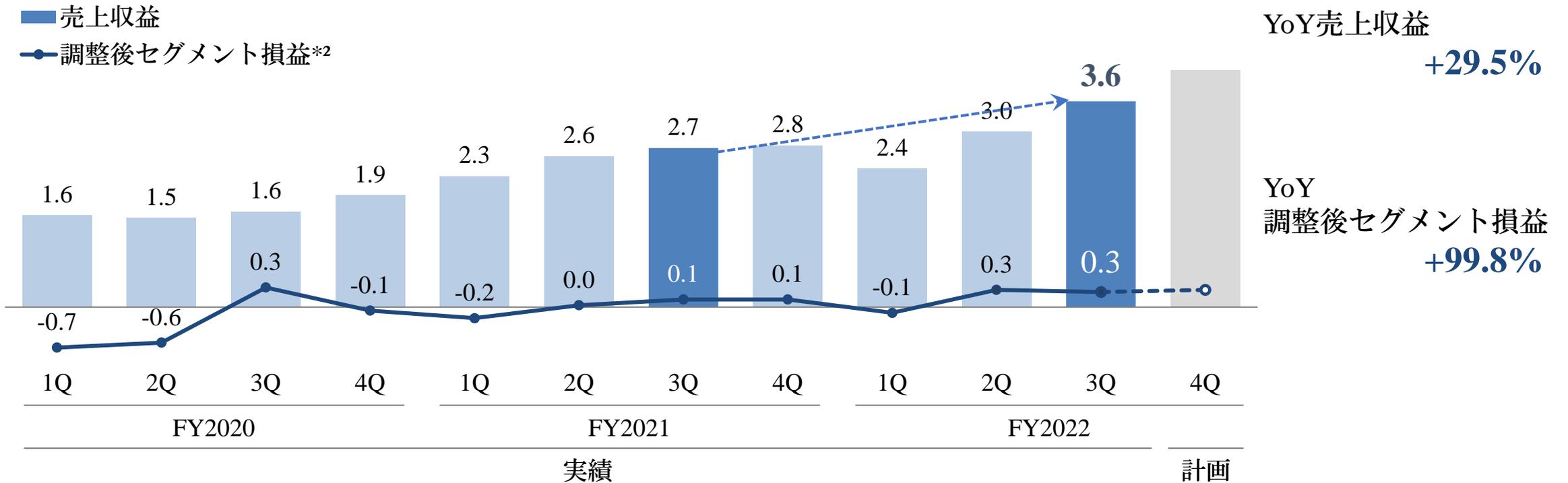




戦略投資領域の業績

FY2022 Q3は売上収益3.6百万米ドル (5.2億円*¹)、調整後*²セグメント損益0.3百万米ドル (0.4億円*¹) で着地。脱コロナの影響で国内外いずれも飲食事業の業績が大幅に改善していることに加え、2022年9月に実施した株式会社ARUKIの子会社化による業績貢献もあり、大幅な増収増益を達成。なお、保有するアイペット株の評価益1.2百万米ドル (1.7億円*¹) などを含んだセグメント損益は1.4百万米ドル (2.1億円*¹) となった

業績推移 (百万米ドル)



*1: 日本円への換算は、1ドル=144.81円(2022年9月30日の為替レート)により計算

*2: 調整後セグメント損益=子会社及び事業の売却損益や金融資産の評価損益、バーゲン・パーチェスによる利得など、本業以外の活動による一過性の非資金取引を除外したセグメント損益



アイペット株公開買い付けに関するお知らせ

当社が保有するアイペットホールディングス株式会社（以下、「アイペット」）の全株式について、第一生命ホールディングス株式会社を実施する公開買い付けに応募することを決議し、投資有価証券売却益として特別利益を計上する見込みとなりましたので、お知らせいたします

アイペット (証券コード：7339) 株価推移



本TOB応募に関する詳細情報

保有株式数	468,000株
応募予定株式数	468,000株
買い付け価格	3,550円
売却予定総額	16.6億円
当初投資金額*1	1.5億円
FY22期初時点の評価額*2	10.2億円

*1：2016年3月

*2：2021年12月29日のアイペット株価2,177円に基づく評価額

2022年12月期 業績予想

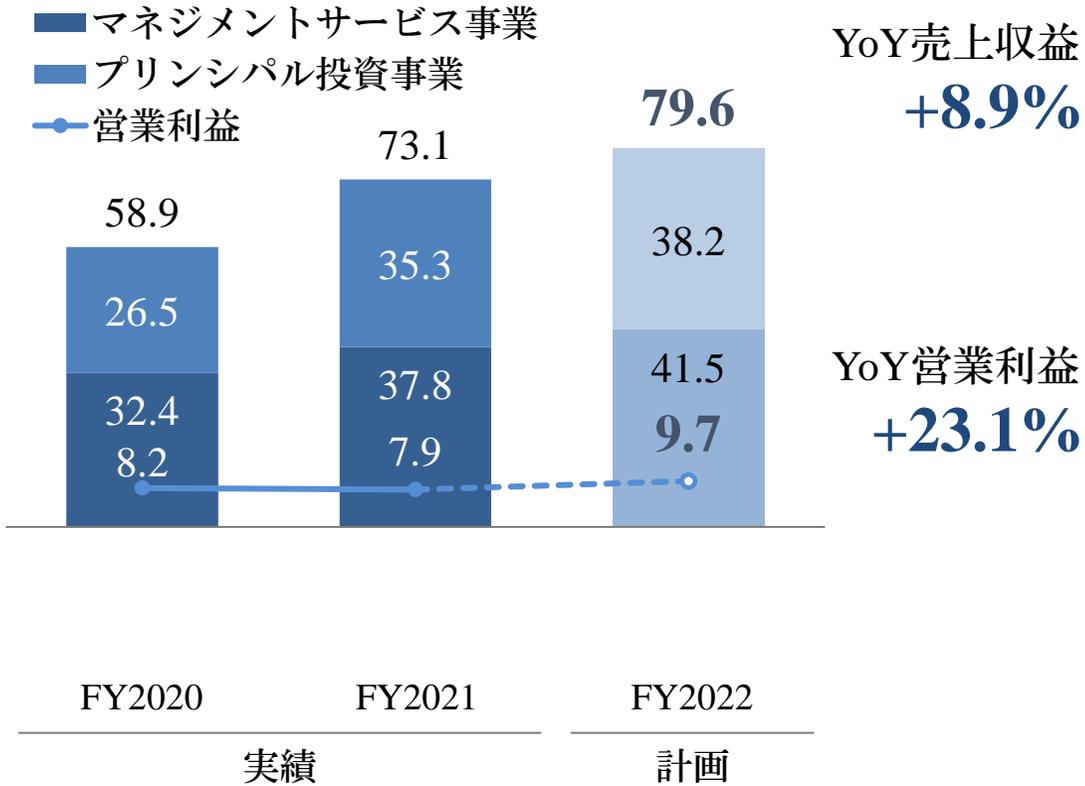




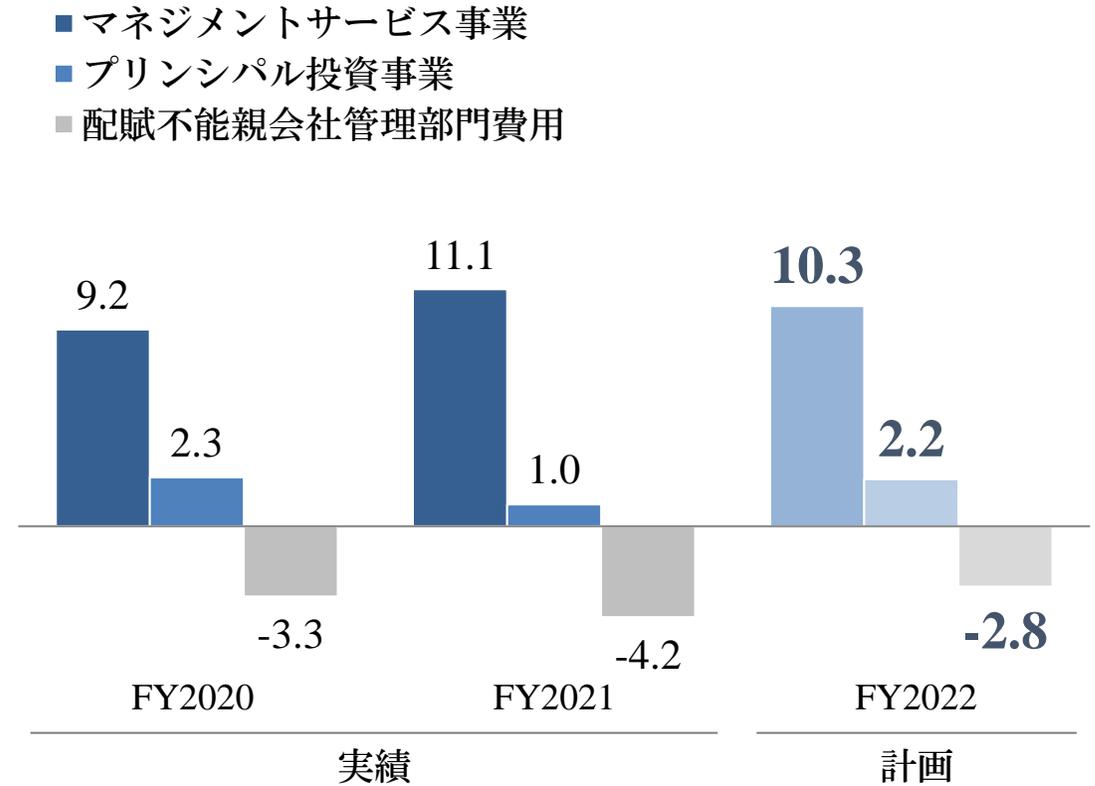
FY2022通期 グループ連結業績予想

FY2022通期グループ連結業績は、期初において売上収益79.6百万米ドル (115.3億円*)、営業利益9.7百万米ドル (14.0億円*) を開示。引き続き急激なドル高の影響は大きいものの、新たに買収したオークタス、ARUKI、アニマルメディカ等の業績貢献も含め、米ドルベースでの期初業績予想を維持

売上収益・営業利益 (百万米ドル)



セグメント損益 (百万米ドル)



*日本円への換算は、1ドル = 144.81円 (2022年9月30日の為替レート) により計算



上場調達資金用途の変更に関するお知らせ

2021年12月の新規上場にて調達した資金32.1億円*1について、オークタス社の買収資金に充当することが当社グループの一層の利益貢献につながるという判断の下、以下の通り資金用途を変更いたします

変更前

具体的な資金用途	支払予定時期	金額 (億円)
パーソナルケア領域での 広告宣伝費等	2022年12月期 2023年12月期	5.6 6.0
ペットケア領域での事業投資	2023年12月期まで	20.0
マネジメントサービス事業の 採用・教育費用及び人件費	2022年12月期以降	0.5
合計		32.1

変更後

具体的な資金用途	支払予定時期	金額 (億円)
パーソナルケア領域での 広告宣伝費等*2	2022年12月期 2023年12月期	- -
ペットケア領域での事業投資*3	2023年12月期まで	15.0
マネジメントサービス事業の 採用・教育費用及び人件費	2022年12月期以降	3.5
マネジメントサービス事業での 「オークタス」買収資金	2022年11月	13.7
合計		32.1

*1：2021年12月21日の新規上場にて調達した資金、及び2022年1月17日にオーバーアロットメントによる募集で調達した資金の合計

*2：自己資金にて全額を充当予定

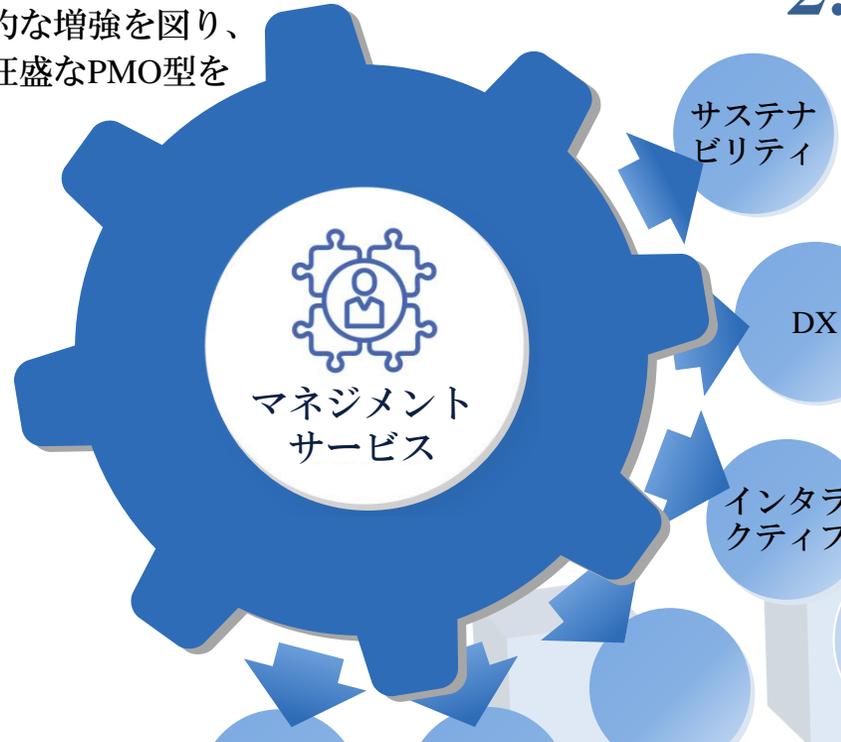
*3：既存の自己資金及び借入にて一部を充当予定。また、ペットケア領域での事業投資15億円については、2022年6月に充当した7億円を含む



グループ全体の成長戦略

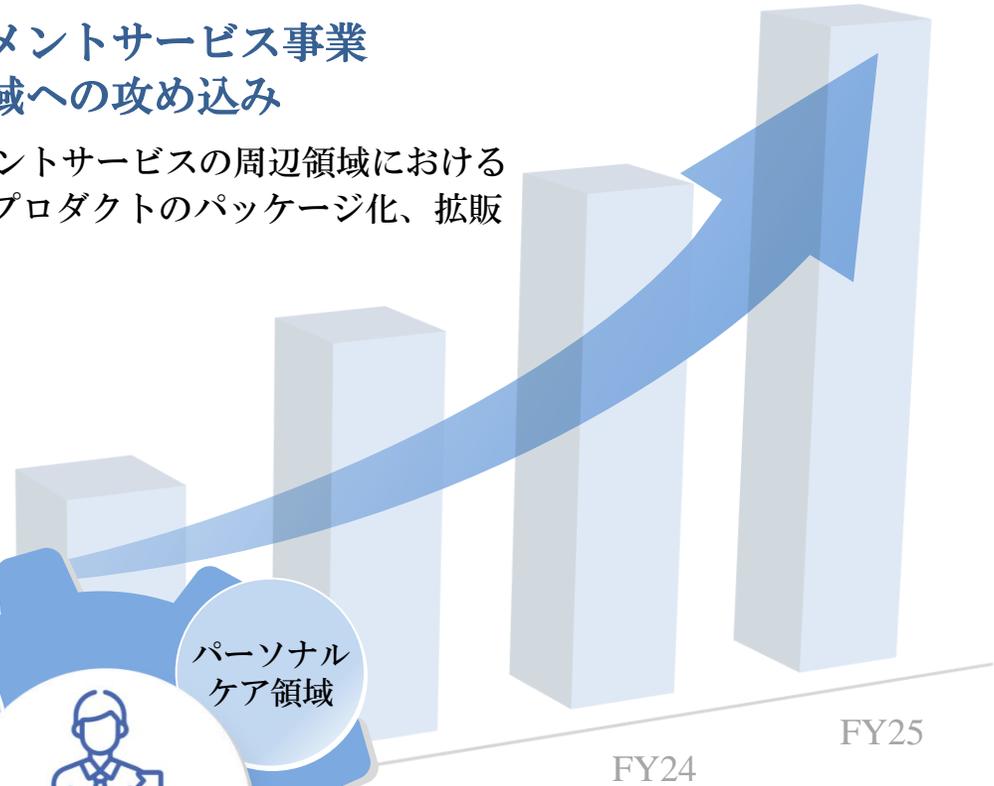
1. マネジメントサービス事業の オーガニック成長

人員体制の継続的な増強を図り、
国内外で需要の旺盛なPMO型を
継続的に獲得



2. マネジメントサービス事業 周辺領域への攻め込み

マネジメントサービスの周辺領域における
B2B向けプロダクトのパッケージ化、拡販



3. プリンシパル投資事業による グループの成長加速

既存事業の強化に加え、DXやM&Aという
観点で、アジア全域を対象とした積極的な
新規投資シーズの発掘

質疑応答



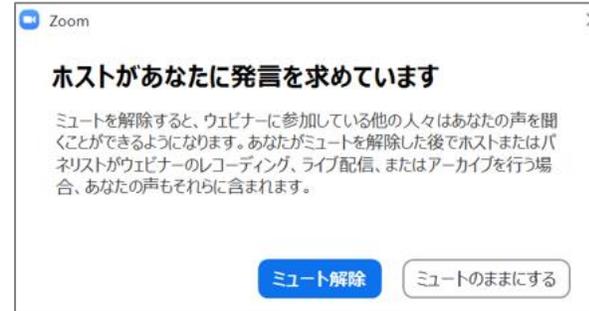


ご質問方法 (オンラインからご参加の方)

■ ご発言



「手を上げる」を押下ください



事務局でご指名後、上記画面が表示されましたら「ミュート解除」を押下し、ご発言ください



ご質問終了後は、「手を降ろす」を押下ください

■ テキスト



「Q&A」を押下ください



Q&A入力画面が表示されます



質問をご記入の上、「送信」を押下ください



IRニュースレターのご案内

当社グループの最新IR情報をお届けいたします。

ぜひ、当社ホームページ (<https://ycp.com/ja>) の「IRトップ」ページから
ご登録ください。

IRトップページへのURLリンク：

<https://ycp.com/ja/investor-relations/ir-top>

IRニュースレターのご購読はこちらから

YCP Holdingsの投資家向けレポートや最新情報をお届けします。

氏名

メールアドレス

購読する →

当社グループは、個人情報の保護に配慮しています。詳細は[プライバシーポリシー](#)をご確認ください。

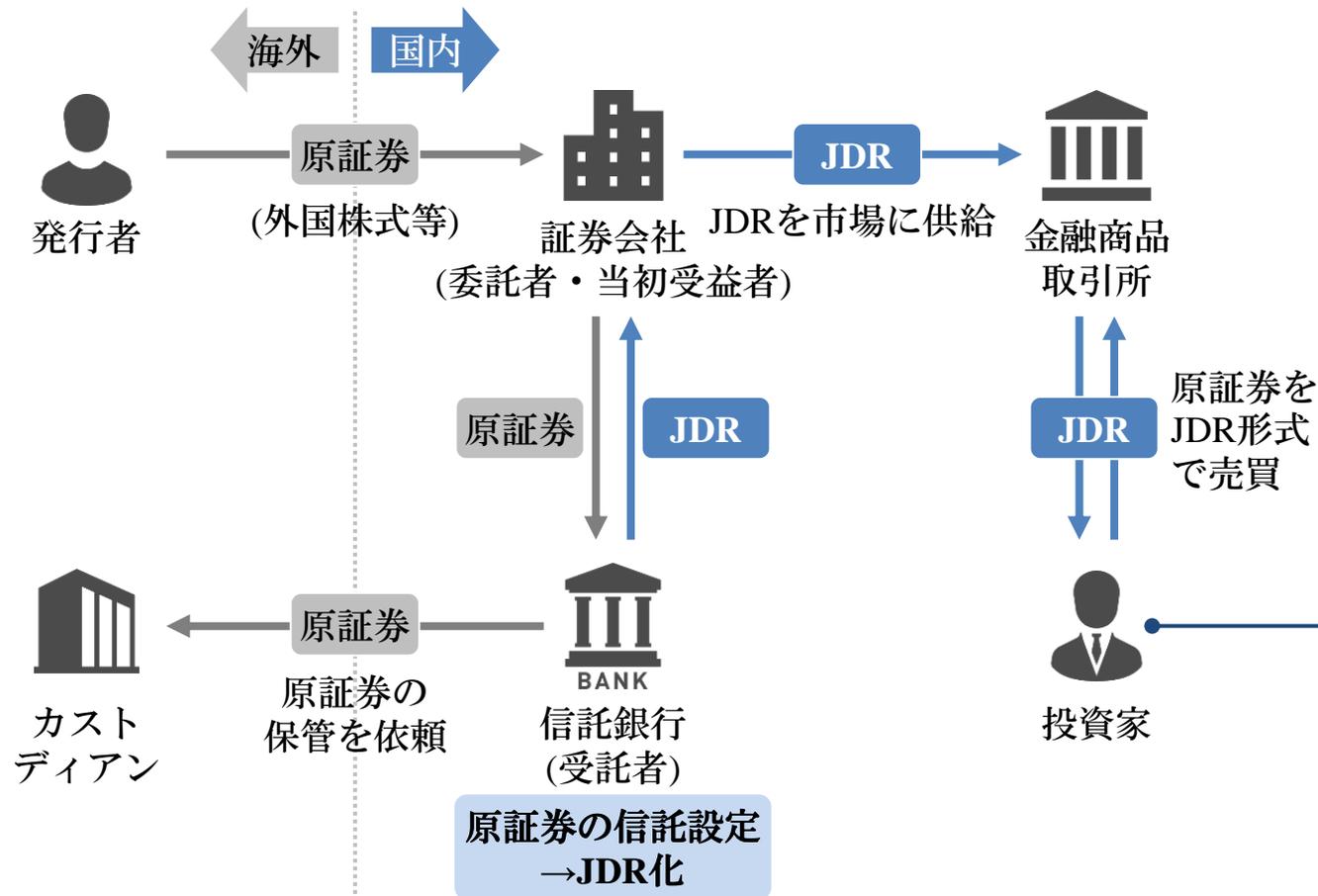
Appendix





JDR (日本型預託証券) とは

JDRの発行スキーム*



JDRのポイント

取引	<ul style="list-style-type: none">• 全国の証券会社を通じて売買可能• 特定口座の取引対象となり、外国証券取引口座の開設も不要• 日本円による決済・分配金受け取り• 税制も国内株式と同様
株主総会	<ul style="list-style-type: none">• 発行会社の株主はJDR受託者(信託銀行)となるため、JDR投資家は、株主総会には出席できないが、発行会社実施するJDR投資家説明会等で対話が可能
議決権行使	<ul style="list-style-type: none">• JDR投資家は原株式の議決権を直接行使することはできないが、JDR受託者に対して議決権の行使指図を行うことにより、間接的に議決権を行使することが可能

*日本取引所グループホームページ掲載のJDRの発行スキーム(例)より引用。 <https://www.jpx.co.jp/equities/listing-on-tse/new/basic/05.html>

